



タリバン台頭
 混乱のアフガニスタン現代史
 青木健太・著
 岩波新書 / 924 円

二〇年の民主化プロセス なぜ失敗に終わったのか

アフガニスタンからのアメリカ軍の撤退は、同国の民主化への路からの撤退であった。「テロとの戦い」の「敵」だったタリバンは、なぜ根強く生き残り続けたのか。本書は、アフガニスタンの社会・組織的構造から見た文脈と国際社会から見た文脈の両側面からタリバンの内実に迫る。自由民主主義諸国と政権掌握集団が、価値体系の相克を超えてどのように共存するかという、現代国際秩序への根源的な問題が問われている。



アジアの脱植民地化と体制変動
 民主制と独裁の歴史の起源
 粕谷祐子・編著
 白水社 / 4180 円

アジアではなぜ民主制と 独裁が共存しているのか

冷戦終結後、おおむね各国が民主制に収斂した欧州・南北アメリカに対して、民主制と個人・寡頭・政党支配などの多様な独裁が混在するアジア。なぜアジアでは政治体制が分岐したのか。その答えを脱植民地化の過程に見出す本書は、東・東南・南アジアの一七カ国・地域もの専門家の論考から、各国の政治制度や運動といった要因を比較分析することで、欧州の経験を基礎にした比較政治学の理論的枠組みの克服をも視野に入れる。

「準同盟」というパズル そのピースの組み合わせは

第二次世界大戦で戦火を交えた日豪は、いまや「準同盟」と呼ばれる関係にある。両国間の地理的距離に起因する戦略環境の違い（距離の専制）があるにもかかわらず、なぜ両国は安全保障協力を緊密化させたのか。本書は、日豪共通の「脅威」、米国の「同盟」、共通の「秩序観」という要因を見出し、関係者へのインタビューや丹念な資料調査に基づいて関連性を跡づけることで、日豪「準同盟」への軌跡をたどる。



日豪の安全保障協力
 「距離の専制」を越えて
 佐竹知彦・著
 勁草書房 / 4180 円



ハックされる民主主義

デジタル社会の選挙干渉リスク
土屋大洋／川口貴久・編著
千倉書房／3300円

情報への信頼性は 民主主義を支える

二〇一六年のロシアによる米大統領選挙への干渉以来、外国政府によるデジタル空間を通じた選挙干渉が、自由で開かれた社会と民主主義国家の根幹を揺るがしている。強い問題意識に立つ本書は、六人の専門家がロシア・中国などによる米国・台湾・ドイツ・東南アジア・豪州への選挙介入や、各国による対応を実証的に分析する。日本の対策の遅れに警鐘を鳴らすと同時に、情報公開性の高い信頼感のある民主主義の構築を促す。

政治と音楽

国際関係を動かす「ソフトパワー」
半澤朝彦・編著
晃洋書房／3080円



政変には、その到来を告げる音楽が添えられる。国民国家成立以前から政治権力は音楽を巧みに利用し、人民もまた権力者に抗する音楽を作り出した。では、音楽が秘める政治的パワーの厳密な「実証」は可能なのか。本書で殊に目を引くのは、一般に異なる評価を持つナチスとアメリカに、共通の文化統制の手法を読み取る分析だ。発展途上ではあるが「政治と音楽」を学問的に分析する研究に先鞭をつける、画期的な一冊である。

音楽は統治の道具であり 反乱ののろしでもある

ペルーは日本の「隣国」 駐在大使が魅力に誘う

遙かなる隣国ペルー

修好150周年 太平洋が繋ぐ戦略パートナーシップ
片山和之・著
東京図書出版／1980円



およそ一万五〇〇キロの彼方にあるペルーだが、日本が中南米で最初に外交関係を樹立した国、日系移住者の数は世界第三位と長くて深い関係だ。共に太平洋国家であり、TPP11に参加する経済的パートナーでもある。大使になって初めて南米に足を踏み入れた著者は、自らを「素人」と称しつつ、現地生活の中で見たペルーという国の魅力や、日本にとっての重要性を新鮮かつ刺激的な語り口で、読者をペルーの情景に誘う。